



かけはし

令和3年7月（第4号）

公益財団法人 豊島修練会

事務局：成美教育文化会館（内）

TEL:042-471-6600 FAX:042-471-6600

HP「成美教育文化会館」で検索】

夏目漱石と正岡子規と寺田寅彦～先生と教え子～

東京都庁が有楽町から現在の新宿に移転したのは、平成3年3月のことです。当時第二庁舎の29階に勤務していました。ある時、仲間たちと正岡子規のことを話していたら、当時の読書家の部長から正岡子規のことを話題にするなら「これを読め」とばかりに「病床六尺（岩波文庫）」を渡され、読みました。

それから8年後の平成10年4月に、JR鶯谷駅の近くに勤務することになりました。近くに、「病床六尺」の舞台となった「子規庵」がありました。この本の内容が、妙にはっきり思い出され、何回も訪れたものです。

ところで、最近、寺田寅彦著「漱石先生（中公文庫）」を読む機会がありました。教師をしていたので、書名の「教師」と「漱石」になんとなく惹かれて手に取ったのです。著者の寺田寅彦（1878～1935年）は、物理学者・随筆家として知られている人です。

読み進めると、寺田寅彦は、当時熊本県の旧制第五高等学校の頃、夏目漱石（当時、夏目金之助）先生から英語を習ったことが分かりました。つまり、漱石と寅彦は先生と生徒の関係でした。本書は、尊敬の念を抱きつつ、私の先生はあの著名な夏目漱石だと誇らしげに師弟関係を綴ったものなのです。私たち教師は、夏目漱石のような著名人ではないが、多くの教え子から頼りにされ、慕われていることは、素晴らしいことであることを自認してよいと思います。

その頃、漱石は俳句を詠んでいて、寅彦も一緒に勉強していたということです。そして、驚くことに、漱石は正岡子規を俳句の師と仰ぎ、鶯谷の子規庵に手紙を出し、俳句の指導を受けていたということです。つまり、子規は漱石の俳句の先生で、寅彦は漱石の教え子であるとともに子規の孫弟子と言うことになります。

本書を読んでいると、夏目漱石、正岡子規、芥川龍之介、津田清楓（画家）、高濱虚子、中谷宇吉郎、そして寺田寅彦の人間としての交わりが伝わってきて、はるか昔の温もりを感じました。思い出に、長々とお付き合いいただきありがとうございます。（H.K）

<備考> [成美教育文化会館]で検索すると、「かけはし」「メッセージ」「Q&A」「ほん本ブック」をはじめ「一字荘」「至楽荘」「成美教育文化会館の会場貸出」など様々な情報が閲覧できます。一度、覗いてみてください。



活動紹介!



さくら会

さくら会は、社交ダンスのサークルです。この会館で活動を始めてから、19年になります。活動の本部は、ひばりヶ丘にあって、会員は東久留米市だけでなく、様々な地域から集まっています。現在、男女合わせて35名程だそうです。

日頃の練習の成果は、5年に1度、本館グリーンホールで発表会を行い、披露することです。素敵な衣装を身にまとい、颯々と踊る姿はとても素敵です。



7月の催しから

- 3(土)
Trombone Ensemble
ファミリーコンサート
- 3(土)
講演会「コロナ禍を生きる」
- 11(日)
楽茶会 
- 11(日)
ぱぴよん サマーコンサート
- 14(水)・21(水)
介護のしごと入門研修
- 23(金)
翠彩コンサート 
- 各音楽教室発表会
 - ・10(土)高尾ピア/教室
 - ・17(土)根岸ピア/教室
 - ・22(木)中路ピア/教室
 - ・24(土)森田ピア/教室
 - ・25(日)佐藤ピア/教室

これらはあくまでも予定ですので変更もございます。一般の方の参加の可否等、詳細は主催者までお尋ねください。

会館事務室から



今月の話題 - 生物多様性

地球には、山、川、海などたくさんの自然環境があります。これは生態系の多様性です。また、動物、植物などたくさんの生き物がいます。これは種の多様性です。そして、同じ生物にしても、色、形、模様などたくさんの個性があります。これは遺伝子の多様性によるものです。これらを含めて生物多様性といいます。

この生物多様性の保全が危ぶまれています。その一つは、森林破壊の加速化です。世界では過去30年の間に日本の国土の約5倍の面積の森林が失われているそうです。その二つは、生物絶滅危惧種の絶滅の進行です。地球上には3~5百万種の生物がいるそうです。そのうちの約4万種が1年間で絶滅しているという研究報告があります。この他にも、環境の変化を受けやすいことで知られるサンゴ礁の減少など、悪化にブレーキがかかっていないものもいくつかあります。持続可能な地球にするために人類が解決すべき重要な課題です。

